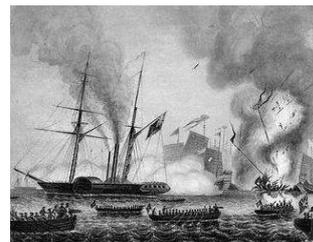


ペリーとアヘンの授業・そして幕末から明治へ（後篇）

2015/5

4 インド大反乱を日本人も知っていた

幕府が開国をしたがらなかった理由、日本人が貿易をしぶっていた理由の一つめは、アヘン戦争で中国が負けたことを知っていたからでした。日本も、中国のようにならないかと心配した・・・でしたね。



さて、では、もう一つの理由は何でしょうか。それは、イギリスがインドを植民地にしたという情報でした。

幕末の佐久間象山という学者が、オランダが持ってくるニュースから、インドで起きた大反乱のようすをくわしく知り、有名な弟子だった勝海舟や坂本龍馬にも教えたり、インドの反乱に同情したという話が残っています。

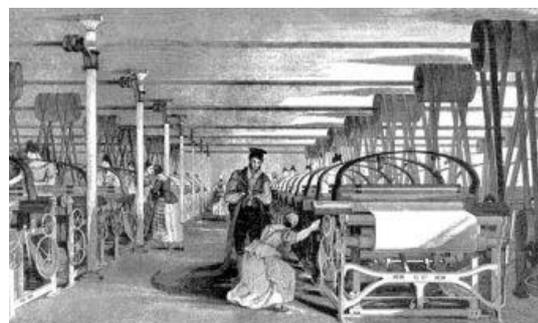


なぜ、インドで反乱が起きたのか、その理由をまず、勉強しましょう。そのためには、イギリスの話から始めましょう。

イギリスでは、17世紀から18世紀にかけて、産業革命が起きました。（これについては、また、別の時間に前もって勉強しておくで大変わかりやすくなります）

それまで、インドが世界一の織物大国でした。うすくて、軽くて美しい木綿の布を、手作りで作っていたのです。

イギリスは、その布をまねて、世界で初めて機械化し、木綿の布を工場で大量生産できるようにしました。この布を、イギリスは、世界中に売り込み、大もうけをしようとした。その一大消費地が、インドでした。



しかし、みなさんも気づくでしょう。

織物大国であるインドは、自分たちで布を作ることができるのに、なぜイギリスの布を買う必要があるか・・・。実は、買う必要はありませんでした。



5 イギリスの布が、世界を変えてしまった。

そこで、イギリスは、それはそれは強引なやり方をしました。どんなやり方をしたのでしょうか。

実際にやったことをインドの人々が話しています。次の文章を読んでみましょう。



インドをこんなひどい貧困と民族の頹廢たいたいにおとしいれた張本人は、まさにイギリス人である。一九世紀はじめまで、インド（現在は東パキスタン）のダッカはその美しい織物で世界に名を知られていた。その織物がいかに高級でせんさいな美しさにみちていたかーインド婦人が身につけるサリーは、いまでは五メートル半の一枚のプリントを腰に二巻きするだけだが、むかしはそれを七巻きしたものである。それほど美しい蟬せみの羽根のようにすき透った織物であった。とてもイギリスの機械制綿布をもっては立ちうちできるものではなかった。しかしこのすぐれたインド織物工業をつぶさないかぎり、イギリス綿布はインド市場にはいりこむことができない。そこでイギリス人は何をしたか。

インド綿工業を絶滅させるためには、すぐれた職人の技術をこの世から完全に消してしまうことである。「邪魔ものは殺せ」これがイギリス人のやり方であった。ダッカの職人は、やってきたイギリス人によって両腕を切り落とされた。それでも足りないときは、両眼をくり抜かれたのだ。この話はインド人の間で先祖代々語り伝えられているのか、私は同じ話を何度もきいた。それを語るとき、インド人はきままって興奮にうちふるえ、こぶしを握りしめながら顔を怒りでこわばらせた。たしかに文献によれば、インド最大の綿業の中心都市ダッカの人口は、一八世紀末の一五万人から一八四〇年ごろにはわずか二万人に減少している。

みなさんはその残酷さに、ショックを受けるでしょう。

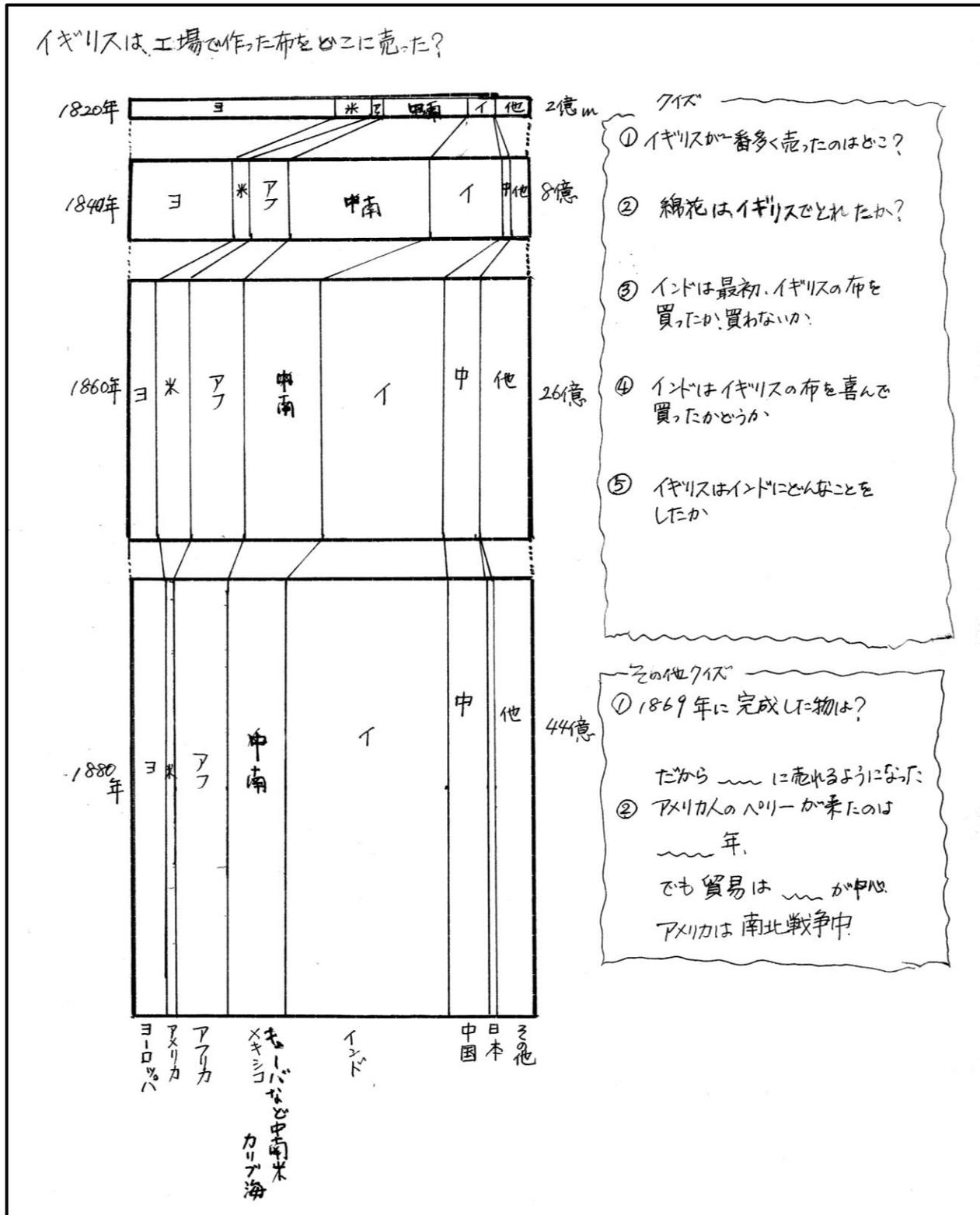
そこまでして、もうけたいのだろうか、疑問にも思うでしょう。

しかし、あなたが工場の持ち主(資本家)だったら、ほんとうに、そう言っているのでしょうか。

あなたの工場では、すばらしい布、うすくて軽くて着心地の良い布が、大量に作られます。そのすばらしい布があとからあとからできるのに、それを、売らずに放っておけば、工場は倒産するだけです。

あなたが社長なら、もっと売りたい、もっともうけたい、そう思うのではないのでしょうか。同じように、イギリスの工場主たちも考えました。

イギリスが、大量生産された布を、実際に世界中に輸出(=売っていったようす)がわかるグラフを、見てみましょう。まず、地域ごとに色分けしてみましょう。



最初イギリスは、国内に売りましたが、それでも余れば一番近いヨーロッパに、・・・
そして次には、アフリカ、アメリカへ、・・・
それでも余ればインドに、・・・
このように、大量に売ったようすが、グラフでよくわかります。
そして、ついに最後には、日本にもイギリスの布が売られました。

⑥ イギリスが植民地のインドにしたこと

インドに木綿の布を大量に売りこむには、職人の腕を切り落とすだけではなく、もう一つ方法がありました。

それは、すべてを安く・・・という方法です。

安ければ、人々は買います。

木綿の布の原料である綿花は、気温が高く乾燥したインドでなければ、育てられません。イギリスでは作れないのです。

そこでイギリスは、インドの人々が作る綿花を、安く買ったたきました。

その上で、イギリスの工場で大量生産された布も、安く売りこみます。

綿花を安くしか買い取ってもらえないインドの人々は、貧乏な生活になってしまいます。そして、さらに、イギリスの布も買わされて、二重に貧しくなっていくのです。

イギリスが、インドを植民地にしたことで、どれほどインドの人々が、苦しんだか。インドの人々が、100年以上、植民地支配という苦しみの中で、どのように生きてきたのか、次の文章を読めばわかるでしょう。

.....

イギリスがインドにしたこと=植民地支配のひどさ、むごたらしさ

① イギリスは産業革命で作った布を、インドに強引に買わせた。

.....これは、前に読んだ文章で勉強しました。

② インドとイギリスの戦争(インド大反乱 1857年)・・・最初の首相が書いていること

1857年、9月から数ヶ月間に、イギリス人は、反乱を全滅させた。

イギリス人たちは、いたるところでテロをくり広げた。

情けようしゃもなく射殺された人は無数にのぼった。

多数の人たちが大砲の砲口から弾丸代わりに打ち出されて、

粉みじんにされ、幾千という人々が、道ばたの木にその死体を

さらしものにされた。

イギリス人将軍は道路に沿って、樹という樹に死体をつるし、

絞首台に早がわりしなかった樹は、一本も無かったほどだということだ。



電線を切断してつるされた人々

③新しい税を勝手に決めて、取り上げる、それもインド人の家来を使って

新しい税を取る方法が始まった。

税を徴収するインド人の役人が決められ、給料の代わりに、農民から集めた税の十分の一を自分の物としてよいこととされた。

イギリスは、このインド人の役人を、やがて地主としてあつかい、土地を取り上げられた農民は、煮て食おうとも焼いて食おうとも、イギリスはただ放っておき、インド人の役人から税を受け取ると、その金をすべてイギリスへ送ったのだ。



富を集めたイギリス東インド会社

④食料ではなく商品作物を作らせる

畑を取り上げられた農民は、畑の一部に藍(アイ)を植え付け、イギリス人に安く売らなければならなくなった。暴力でおどかされた。



アイ



今のアイ栽培

藍の値段が値下がりした時には、自分たちで食べる米を、畑で作る方が、ずっと有利だったのが、それが許されなかったのだ。

1861年、1876年、1896年、1900年(ペリーがやって来た頃)米や小麦を作らせなかったために、飢きんが起こり、一千万人以上が死んだ。



インド総督の家

.....

しかし、こうして苦しむインドを、イギリスは、手放すことなど少しも考えませんでした。それは、大英帝国となった豊かさを、インドが支えていたからです。こういうエピソードが残されています。



インドは「イギリス国王の王冠にはめ込まれた最大の宝石」と言われていた。

1900年、カーゾン提督は、以下のように述べることでインドの重要性を訴えた。

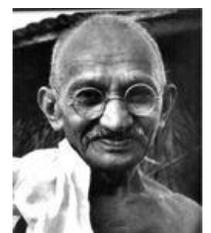
“我々(イギリスのこと)は、インド以外の全ての植民地を失っても生き延びることができるだろう。

しかし、インドを失えば、我々の太陽は没するであろう。”

20世紀になって、インド独立の父“マハトマ＝ガンジー”は、イギリスからの独立運動を始めました。

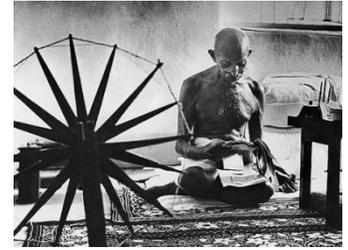
ガンジーの運動は、非暴力・不服従の運動と言われますが、何もしなかったわけではありません。

その一つの方法が、布でした。



ガンジーは呼びかけました。

「私たちが貧乏になるのは、イギリス製の安い布を買うからだ。
さあ、イギリスの服を脱ぎ、デリー、ロンドンの町で燃やそう。
そして、私たち自身が作った布を身にまとおう。」



こうしたガンジーの運動を、イギリスは止められませんでした。

ガンジーの運動は、植民地支配の実際のようなすを世界に訴えただけではなく、イギリス経済にも打撃を与えたのです。

他にも、いくつもの方法を一つ一つとって、最後にガンジーはインドの独立を勝ち取ります。
糸車を回すガンジーの写真は、イギリスの植民地支配と闘う運動の象徴なのです。

7 もし、あなたが坂本龍馬なら？

長く勉強してきましたが、もう一度出発点に戻りましょう。

ペリーが来た時、日本人の多くが攘夷の方が正しいと考えていました。

その理由は、

一つめ、アヘン戦争でイギリスが負けたこと

二つめ、インドがイギリスに植民地にされてしまい、イギリスに対して反乱を起こしたこと

この二つのことを、オランダや中国から聞いて知り、日本もそうになってしまうのではないかと、恐れたからこそ、開国をなかなか選ばなかった・・・・・・・・・・。

今まで、勉強してきたことは、そういうことでした。

それならば、あなたがたも、坂本龍馬になったつもりで、考えてみましょう。



組 名前

あなたが坂本龍馬だったら、どうしたらいいと考えますか？

外国(イギリス他)が日本にやってきて、貿易をしようと言っている。

このままだったらインドのように植民地にされてしまう？

中国のようにアヘンで国がだめになる？ どうする？

あなただったら **開国する(貿易する) ・ 開国しない(鎖国のまま)**

そして、対策はどうしますか？ (アイディアをたくさん書いてください)

こういう質問に、授業を受けた中学生たちがどう考えたかを、紹介しましょう。
 まず、開国派 99 人、攘夷派 42 人、(開国派だけになってしまわないところが当時のようすをわかっているためだと思います)
 そして、意見はほんとうにいろいろです。

まず、とんでもない意見、でも、こういう意見があるからこそ楽しい意見、・・・から紹介しましょう。

- ・女忍者が接待して好感度をあげる、油断させたところで倒す
- ・ごめんなさいとあやまって追い返す
- ・敵にスパイを送り込んで崩壊させる
- ・ここが日本じゃないふりをする
- ・海岸線に、男子全員で出て見はる
- ・相手の外国の人と結婚し、ハーフの子どもをたくさん産んで中立にさせる
- ・まわりの海にサメを泳がせる



どれも????、え〜〜〜?よく意味が解らない・・・そう思うでしょう。
 でも、誰も考えないことだからこそおもしろい。
 みんなが笑顔になって、笑い出します。このスタートがいいです。
 誰でも、どんな意見を言ってもいい・・・そう認め合えます。

さて、次に、攘夷派からの意見を紹介します。

- ・鎖国を続けてその間に団結
- ・日本に近寄せない
- ・何をされても拒否、鎖国
- ・人質を取っておどす(殺すぞ)
- ・上陸してきたら倒す。戦争も仕方ない
- ・バリケードを作って入れないようにする
- ・軍隊を作って戦う



お台場の砲台跡

最後の二つは、実際に幕府がやったことですね。
 東京湾にお台場を作って、砲撃の準備をし、守りを固めていました。
 また、陸軍を作ろうとしたり、勝海舟の意見を入れて、海軍を作り始めていました。

実は、幕府が開国かどうか意見を求めた時、一番最初に紹介した意見以外にも、大名たちの意見が寄せられていたのです。それを紹介しましょう。
 その中には、中学生とほとんど同じ意見もあります。
 このあとの開国派の意見には、勝海舟にそっくりの意見も出ていますし、島津斉彬の意見にも似ています。

あなたならどの意見に賛成?

 勝海舟 (幕府の役人)	開国をして貿易を盛んにし、富国強兵につとめるべきだ。	要求はのめない。国をあげて戦うべきだ。 徳川齊昭 (大名)	
 ある庶民	船をこいでいって、飲めや歌えの大盤振る舞いをして、全員が寝たところを刀で切り殺してしまえばいい。	交易することは3年間待って、その間に戦う力をつければいい。 島津斉彬 (大名)	

次に、開国派の中学生の意見を紹介します。

これは、具体的で、どうしたら、植民地にならずにすむか、知恵をしぼっているところが、なかなか賢い。中学生でも、これだけアイデアにあふれるというのが、すごいです。

- ・信頼できる国と貿易する。イギリス以外。
- ・日本よりも戦力がない国だけと貿易する
- ・絶対戦争しない
- ・お互いの国が豊かになるような貿易をする
- ・平等・対等な貿易をする
- ・条件をつけ、ルール、条約を決めて貿易する。
- ・輸入するものをチェックする(税関) 武器も持ち込ませない
- ・輸入するものを決める。量も制限する。必要な物だけにする
- ・日本が弱くないことを交渉で見せつける
- ・相手に高い関税をかける
- ・アヘンは取引しない
- ・ようすを見てすぐに開国しない。その間に戦争になってもよい準備をする。
- ・外国人を港以外あまり出歩かせない。上陸させない。



ほんとうに、このように、交渉できれば、どんなによかったか……。

実際に実現させていたところもあります。

アヘンは持ち込ませない、居留地を作り、そこから出させない、……

しかし、圧倒的な武力を見せつけたアメリカは、貿易の条件も次々と、アメリカに有利に決めていきました。

そして、アメリカだけでなく、日米修好通商条約、日英修好通商条約、日仏○○…日露○○…日蘭○○…、ついに、五カ国と不平等条約を結ばされる…そういう事態に追い込まれます。日本国内では、それでも、開国をやめるべき、続けるべき、両方の意見が渦巻いていました。

中学生の意見には、開国したあとを予想して考えた意見もありました。

これらは、実際に、最初には幕府が、それをついで明治政府が、政策として、次々に行ったことが含まれています。

矢印のあとに、その内容を載せてみました。

- | | |
|------------------------|------------------|
| ・周りの失敗を学び、より良い国へと導く | |
| ・開国すると文化が発展する。 | ⇒ 文明開化 |
| ・進んだ技術を取り入れる | ⇒ 殖産興業 |
| ・外国人をやとい、蒸気や布の技術を学ぶ | ⇒ お雇い外国人、明治の産業革命 |
| ・産業革命をして進んだ国になっておく | ⇒ 明治の産業革命 |
| ・武器を輸入して、戦争の時の用意をしておく。 | ⇒ 富国強兵 |
| ・軍事力を高める。海軍を強くしておく | ⇒ 徴兵令 |
| ・学校を作ったり、農業や、工業を発展させる | ⇒ 学制、殖産興業 |



咸臨丸 KANRIN MARU
1857~1871

それだけではありません。その後の日本の動きを、予言するような意見も出てきます。これらについても、明治政府以降が行う政策を載せてみましょう。

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ・日本が外国を植民地にしてしまう | ⇒ 台湾出兵、韓国併合、日中戦争・太平洋戦争へ |
| ・イギリスを味方につけて守ってもらう | ⇒ 日英同盟 |
| ・将軍を暗殺して政治を天皇中心に | ⇒ 討幕運動 |
| ・アヘンを他の国に売りつける | ⇒ 日中戦争中の日本軍 |



次の意見は、私が考えもつかなかったすばらしい意見です。幕末の思想家たちの中にも、こういうことを考えた思想家がいたそうです。実現はむずかしかったかもしれませんが、列強の側に入ることばかり考えていた日本が、第二次世界大戦の一つの原因を作ってしまったのではないかと、とても考えさせられる貴重な意見でした。こういう見方をする中学生もいるというのは驚きでした。

- | |
|--------------------------------|
| ・他の国と条約を結び助けてもらう |
| ・イギリス以外の他の国と同盟を組み、準備する。イギリスを攻撃 |
| ・タイなどに植民地にならない方法を聞く |
| ・中国インドと同盟を組みイギリスを攻撃 |
| ・反アヘン・植民地貿易協定などを結ぶ |

第二次大戦後のアジア・アフリカ会議を予見しているようにも思えてしまいます。

さて、最後にクイズで、この幕末の人々の考えをまとめた章を終えましょう。

今、貿易なしでは、日本は成り立たないほどの状態です。

さて、みなさんも、海外へと旅行する時があるかもしれません。

その時、今の時代に、日本に持ち込んではいけない物は、何でしょうか。

予想してみてください。

答えは、次の用紙に書いてあります。

携帯品・別送品申告書

(A面) 携帯品・別送品申告書

下記及び背面の事項について記入し、税関職員へ提出してください。
 家族が同様に申告を受ける場合は、代表者が1枚提出してください。

氏名: フリガナ _____
 性別: _____
 年齢: _____
 国籍: _____
 入国日: _____年 _____月 _____日
 入国場所: _____
 滞在期間: _____月 _____日
 別送品: _____
 携帯品: _____

※ 以下の項目について、該当する□に○でチェックしてください。

1. 下記に掲げるものを持っていますか? はい いいえ
 ① 日本への持込みが禁止又は制限されているもの(日本を輸出) はい いいえ
 ② 免税範囲(自由枠等)を超える購入品・お土産品・贈答品など はい いいえ
 ③ 喫煙具・商品サンプル はい いいえ
 ④ 他人から預かったもの はい いいえ

※ 上記のいずれかで「はい」を選択した方は、B面に入国時に携帯して持ち込むものを記入してください。

2. 100万円相当額を超える現金又は有価証券を持っていますか? はい いいえ
 ※ 「はい」を選択した方は、別途「支払手段等の携帯輸出・輸入申告書」の提出が必要です。

3. 別送品 入国の際に申告せず、郵送などの方法により別に送った荷物(引継荷物を含む。)がありますか? はい いいえ
 ※ 「はい」を選択した方は、入国時に携帯して持ち込むものをB面に記載したこの申告書を2枚、税関に提出して、税関の承認を受ける必要があります。
 税関の承認を受けた申告書は、別送品を届出する際に必要となりますので大切に保管してください。

(注意事項)
 海外で購入したもので、預かってきたものなど日本に持ち込む携帯品・別送品については、税関に申告し、必要な申告を受ける必要があります。申告漏れ、偽りの申告などの不正な行為がありますと、処罰される場合がありますのでご注意ください。

この申告書に記載したとおりである旨申告します。

署名 _____

- ◎ 日本への持込みが禁止されているもの
- ① 麻薬、向精神薬、大麻、あへん、覚せい剤、MDMAなど
 - ② けん銃等の銃器、これらの銃器弾やけん銃部品
 - ③ 爆発物、火薬類、化学兵器原料、炭疽菌等の病原体など
 - ④ 貨幣・紙幣・有価証券・クレジットカードなどの偽造品など
 - ⑤ わいせつ雑誌、わいせつDVD、児童ポルノなど
 - ⑥ 偽ブランド品、海賊版などの知的財産侵害物品

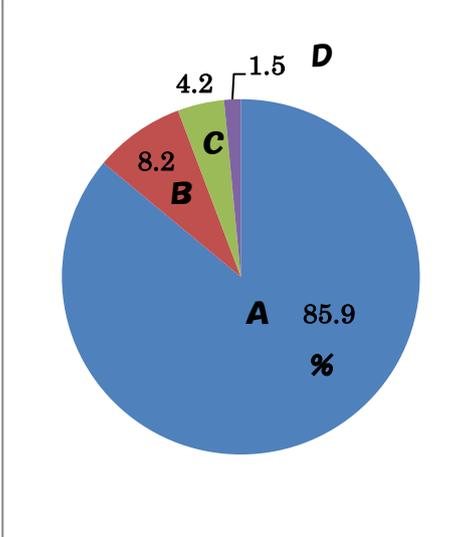
ちゃんと今でも、持ち込み禁止なのが、麻薬、そして、アヘン、武器などです。
 アヘンという文字が、今の時代にも書いてあることに驚きます。

8 開国した結果、日本はようになったのだろう。

日本が開国した結果、その後、どんなようすになったのか、それを考えていきましょう。
 右にグラフがあります。

さて、日米修好通商条約が結ばれて、日本も開国をしました。
 各国と貿易をするようになりました。
 約10年後、貿易がさかんになった横浜で、どの国が一番貿易額が大きいかを表わした円グラフです。

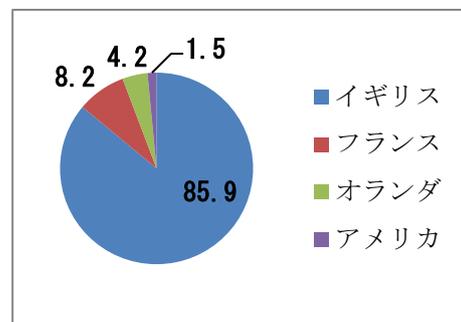
さて、この中で、アメリカは、A、B、C、D、・・・
 どれを示しているのでしょうか。



答えは実はDが、アメリカでした。
 アメリカは、ハリスが来て、日米修好通商条約を結んだあと、アメリカ国内で、南北戦争が始まったために、貿易どころではなくなってしまったのです。

では、今度は、Aの国が、どこの国か考えてみてください。
 今まで勉強したことをもとにして、推理してみましょう。

今回は、わりに簡単に推理できたのではないのでしょうか。
みなさんが予想した通り、実は、Aは、イギリスだったのです。
イギリスが、多くの物を売り込んでいました。
もちろん、その中には、イギリス製の綿布も入っていました。



恐れていた事態が起きていました。
イギリスからは綿織物や毛織物が大量に売り込まれました。
そのために、日本で木綿の織り物を作っていた人々が、失業することになってしまいました。
また、一方では、絹糸が大人気で、外国が大量に買い取っていったために、日本の絹織物を作っていた人々は、絹糸が足りなくて、倒産寸前になりました。
そして、それだけではありませんでした。
日本では金貨の大判小判が、外国よりも大量に使われていたために、貿易をする外国人たちは、これに目をつけました。両替をして、金も大量に持ち去ってしまいました。
総額 10 万両？とも言われるほどだそうです。

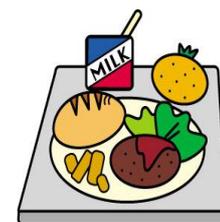
日本は、綿産業がつぶれ、絹織物産業がつぶれ、物価上昇が 10 年間で、10 倍以上となる経済になりつつありました。

10 倍というのは、恐ろしい上昇率です。

たとえば、10 円のお菓子が 100 円・・・これではあまり驚かないかもしれませんが、100 円のハンバーガーが、1 個 1000 円に、回転寿司の一皿が、1000 円に・・・とを考えてください。

あるいは、給食の量が、今の 10 分の 1 に・・・と考えてみてください。

カレーライスが、大きじ三杯くらい、牛乳が 20 cc、おちょこ一杯・・・くらいしか、給食が食べられない・・・では、暴動が起きますね。



こうして、幕末の日本の人々の不満は、開国をした幕府と、貿易をする外国人たちに、改めて向けられていきました。

さらに、外国と貿易を始めたことで、コレラ菌に感染した水兵たちがアジアからやってきて、日本にもコレラが伝わり、江戸にまで広がって行きました。そのことが、さらに日本を混乱させていきました。(この時代の状況をよく表した時代劇「仁」も参考になります)

外国人に対する不満は、開国以前よりも、開国後に強まり、各地で、外国人を追い出せ、攻撃せよ、という尊王攘夷運動がさらに過激に強まります。

そして、実際に攘夷を行い、コテンパンに報復されてしまった藩が、長州藩と薩摩藩でした。二つの藩は攘夷をあきらめ倒幕運動の中心を担っていきます。この二つの藩を結びつけたのが、坂本龍馬でした。

この後の幕府、薩摩・長州藩の動きは、どちらかという、内戦の危機をも感じさせる激しい権力闘争になっていきます。

くわしくは、また、別の機会に、勉強しましょう。

前のページに書いた中学生の意見の通り、どちらが権力を握り、近代国家を作り、産業革命をやりとげ、強い国を作ったか・・・という長い歴史の話になるのです。

ただ、出発点と、その後、登場する人物たちの顔と名前を知って、その歴史の流れを追ってほしいので、参考に、当時の意見と顔写真を見ておきましょう。

あなたは幕府(「いやいや開国」)派? それとも攘夷(じょうい)派?(「開国などせず外国人を殺害せよ」)

あなたの知っている幕末の志士たちは、何派か知っていますか?

1853年ペリーが来た時何歳だったかな? そしてその後は?

幕府側 = 開国派



将軍慶喜 16歳



大老井伊直弼 38歳



勝海舟 30歳

新撰組



近藤勇 19歳



土方歳三 18歳

幕府に反対 = 攘夷派、実行へ

朝廷



孝明天皇 22歳



岩倉具視 28歳

薩摩藩



大久保利通 23歳



西郷隆盛 26歳

長州藩



吉田松陰 23歳



桂小五郎
(木戸孝允)20歳



高杉晋作 14歳



伊藤博文 12歳

この後登場



明治天皇 1歳

土佐藩



坂本竜馬 18歳

佐賀藩



大隈重信 15歳



坂垣退助 16歳



伊藤博文 19歳

もう一枚、明治になってからの人々の写真も添えておきます。
有名な人物たちが、みな洋服で写真を撮っているのが、文明開化を表わしていますね。

明治政府の政治を動かした人々



明治天皇

薩摩藩・鹿児島
内務卿(のちに暗殺)



大久保利通

薩摩藩・鹿児島
陸軍大将(失脚、後に戦死)



西郷隆盛

長州藩・山口
参議(のちに病死)



木戸孝允

朝廷から
右大臣



岩倉具視

肥前藩・佐賀
大蔵卿



大隈重信

長州藩・山口
工部卿



伊藤博文

土佐藩・高知
参与(失脚)



板垣退助

幕府の家臣
海軍卿



勝海舟

肥前藩・佐賀
司法卿(のちに反乱・処刑)



江藤新平

9 最後に、・・・私たちの生活の基礎はイギリスが作ってくれた

今まで、産業革命から明治維新の前までの勉強をしてきました。
その中で、イギリスは、もうけのために、世界をまきこんで貿易を拡大して
きた・・・そういう内容が、わかったと思います。

イギリスから始まった、もうけのために、すべてが動いていく・・・
こういう社会が、今の社会のしくみとなりました。このしくみを資本主義と
言います。



世界で一番初めに資本主義社会となったイギリスについて、みなさんのイメージは、今まで勉強したことから考えると、あまりよくないものになってしまったのではないかと思います。

では、イギリスは悪者なのか、・・・歴史はそう簡単には言い切れない、その話を、最後に
つけ加えておきましょう。

まず、産業革命の勉強を、別の機会にくわしく学ぶと、イギリスの産業革命がいかにすばらしいか、きっと驚くことでしょう。

産業革命と言えば、三つ。綿織物工業の発達、蒸気機関の発明、鉄の大量生産の発明、どれをとっても、今の私たちの生活の基礎を作るものです。

江戸時代以前の人々が持っていた衣類は、多くても5枚以下。今のTシャツが1000円以内で買えて、下着だけでも10枚をこえる生活など、想像もつかないでしょう。

蒸気機関車や蒸気船が発明されてから、人々がひんぱんに旅行をするようになりました。

鉄の大量生産は、根本的に、人々の生活を変えています。すべて鉄が無くては、暮らせません。自動車、学校・マンションの建物、輸出入の船、飛行機、固くて丈夫な大量の鉄が、私たちの生活を支えています。

その基礎を作ったのは、イギリスの産業革命でした。

一つのエピソードを紹介しましょう。

イギリスが世界に広めたものに、紅茶があります。

私も、紅茶が大好きです。

“午後の紅茶”という銘柄の紅茶も売っています。

午後の紅茶は、英語で言えば“afternoon tee (アフタヌーン ティー)”。

ミルクティーにスコーンなどを添えて、
午後のおやつに食べる、そういう習慣です。



さて、こんなぜいたくな習慣は、なぜ始まったのでしょうか。

こういうエピソードが残されています。

産業革命の時代のイギリスでは、工場で働く人々が、都市に集中し、スラム街に住んでいました。

工場労働者が、都市に何万人も住むという状況は、世界でも初めてだったために、人々が暮らす環境は、全く考えられていませんでした。

たくさんの人々が、一定の場所に集まって住む場合、一番の問題は、常に下水、つまり、排せつ物や汚水がどう処理されているかという問題です。

古代の都市、ローマやインドの文明でも、その問題がよく考えられていましたし、日本の古代・平城京・平安京でも大きな問題でした。

ロンドンの場合、始め、下水の問題は放っておかれ、テムズ川が上水と下水の両方の役割を果たしたために、伝染病が流行するなどして、多くの人々が命を落としました。

まず、下水で汚染された水を、飲み水として使う場合には、煮沸消毒が当然です。

人々は、水を沸かしてから飲むようになりました。

確かに、衛生的には、水を沸騰させてから飲めばいいわけですが、その後、色やにおいをすべて取り除くのは、むずかしいことです。

そこで、紅茶が好まれた・・・という話が言われているのです。

この話は、私の記憶の中にあるので、実際に本当の部分がどれほどあるのかは、今は自信がありません。(現段階では参考文献を搜索中です)

あのおいしい紅茶が、下水の水を飲むためだったなどと聞くと、がっかりする人たちもいるでしょう。

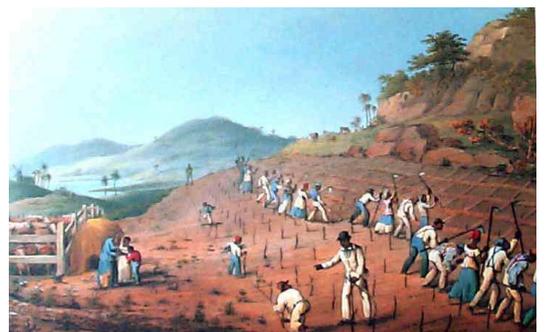
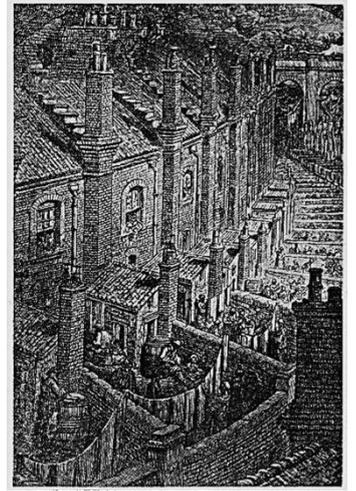
でも、色もきれいなうすい茶色、匂いはかぐわしい甘い香り、そして、そこに、ミルクを少ししたら、砂糖を加えれば、何とおいしい飲み物になることでしょう。

工場労働者の間でも、「うすい紅茶、少しの砂糖、牛乳を入れたものが飲まれる」と、エンゲルスは書いています。てっとり早くカロリーがとれて、体の温まる紅茶は労働者階級の人々にも大変好まれた物でした。

イギリスにとっては、紅茶はなくてはならないものになりました。つまり、お茶の葉と、砂糖が必需品になったのです。

砂糖も、実はイギリスで栽培できませんね。イギリスの植民地、西インド諸島で砂糖栽培ができたからこそ、紅茶文化がイギリスに根付いたのでした。

(砂糖についても、さまざまな歴史が今につながっていますので、それを調べてみるのもおもしろいと思います。)



世界一の紅茶を生産したい・・・そうして開発されたのが、インド、最北部のダージリンです。ダージリンは、ヒマラヤ山脈のふもと、2000m級の高地にあります。ダージリンは、インドの猛暑を避ける避暑地であり、世界一の紅茶の生産地でもあるのです。

ダージリンからふもとまでは、今は世界遺産になった蒸気機関車の鉄道が引かれました。

8時間以上もかけて、紅茶専用の小さな蒸気機関車が、収穫したお茶をふもとまで運んでいたのです。



イギリスの工場労働者にまで好まれた紅茶は、いったいどこが生産地だったでしょう。

それは、まずは中国でした。

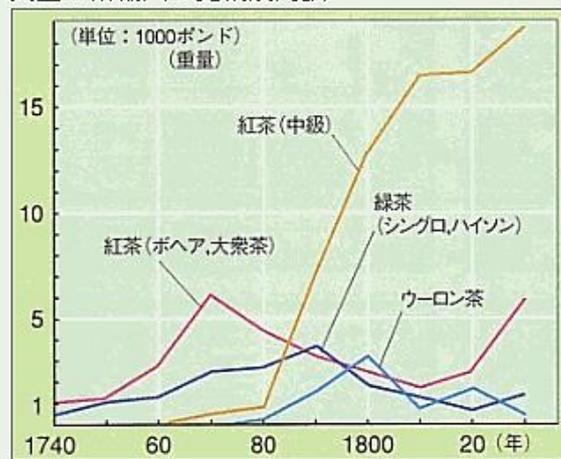
お茶の原産地は、中国の南の地方です。

右のグラフを見ると18世紀から19世紀にかけて、イギリスが輸入する茶の量が、10倍以上に伸びていることがわかります。

大量に茶を輸入するイギリスは、中国貿易での赤字に苦しんでいました。

中国では、イギリス製の綿布があまり売れず、輸入の茶ばかりお金がかかっていたからです。

英国の茶輸入の銘柄別内訳



そこで、綿布の代わりに輸出を考えたのが、インド産のアヘンでした。

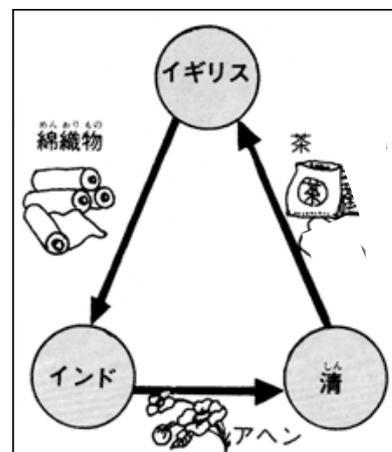
この貿易をイギリスのアジアの三角貿易と言います。

前に述べたように、イギリス産業革命は、世界中を豊かな社会へと導きました。

どれだけ、私たちはその影響を受けているか、はかりしれません。

しかし、その一方で、イギリスは豊かさのために、インドを植民地支配し、アヘン戦争で中国を打ち負かしました。

このあとの歴史も、産業革命と、決して無関係ではなく、世界中に植民地を持つイギリス(=大英帝国)を見習って、豊かになろうとしたヨーロッパの国々、そしてアメリカ・日本も加わって、その市場、植民地を求めての世界大戦が、二度起きてしまいます。



そして、今も無関係ではありません。

今、先進諸国と呼ばれる国々は、産業革命を先がけて行なった国々ですし、原料や資源を供給する側の元植民地の国々は、いまだに原料を安いままの値段にすえおかれて、先進諸国の圧力に、苦しんでいる状態です。

また、第二次世界大戦後に起きた、局地的な戦争や内戦のどれを取って見ても、資本主義を支える資源や原料の問題が、全く関係ないという戦争は、一つも無いでしょう。

資源・原料の問題だけではなく、現在 21 世紀は、大量生産が大量消費を生みだして、地球環境を人類が住めないものに変えてしまっているのではないかと、という危機感まで、言われるようになりました。

貧富の格差、環境破壊・・・この社会のしくみ、世界のしくみをより良い方向に考えていかなければいけないというのは、人類共通の課題です。

それを考える時に、この社会のスタートはどこからか、当時の人々はどうかを知るの、とても参考になるでしょう。日本では、それが、ペリー来航だったのです。

幕末の人々が悩み、情報を必死で求め、どう選んでいこうとしていたか、その姿勢をくわしく学ぶことが、少しでも、未来を考える手助けになるのではないかと、私は思います。



幕末の子どもたち
(撮影：ベアト)

明治初期の子どもたち
(撮影：モース)



「明治の子どもたち」
PEM Collection